

製品ライフサイクル管理 (PLM) が定義された1990年代後半、CIMdataはすでに、製品について精密・緻密な表現で定義をし、その製造定義、そして結果としての使用や廃棄をドキュメント化、すなわち正確に実態を記録に残し、部品表 (BOM) を他の多くの情報や知的財産にリンクさせた仕組みであるBOI (bill of information)、すなわち製品に関連する包括的な情報 (包括的製品情報目録) の概念についてすでに推進していました。今日、製品ライフサイクルと関連プロセスをサポートするために使用されるツールの多様性に見られるように、無数のアプリケーションが情報を生成します。

今日、常套句は「デジタルスレッド」であり、それは産業界、政府、PLMエコノミー (産業界のPLMビジョン達成を支援するソフトウェアおよびサービス企業を表すCIMdataの用語) によって広く採用されています。残念ながら、これらの関係者の多くは、同じ言葉でまったく異なることを表しており、これは至極一般的なことでもあります。

本フォーラムでは、CIMdataが全体的な課題を明確にして取り上げ、グローバルなPLMエコノミーがどのように対応しているか、また、産業界の顧客がデジタルスレッドの目標をどの程度達成しているかにフォーカスします。

## 背景

インダストリー3.0の開始と製品ライフサイクルへの初期のデジタル技術の適用以来、企業はライフサイクルアクティビティの中で生成される無数の情報タイプに対処する必要がありました。ポンチ絵やメモ書き、正式な要件、プログラムとプロジェクト計画、初期段階での0-1Dモデル、MCAD、EDAのアウトプット、ソフトウェアのソースコードと実行ファイル、シミュレーションと解析 (S&A) によるテスト結果などは、製品のアイデアからその生涯にわたって製品の進化状況を説明するためには、ほんの一部の情報の種類にすぎません。1990年代後半、CIMdataは、当時出現したPLMの定義よりも前にこの新しい考え方を述べるためにBOI (bill of information) について語り始めたのです。

それは今では、情報システムやストレージデバイスの異種混合な情報を管理する能力は、私たちを驚かせ続けています。今日の考え方は「デジタルスレッド」であり、PLM (およびERPやCRMなど他のアプリケーション領域) 全体のソフトウェア企業や大手サービスプロバイダーによって用いられています。政府機関、特に航空宇宙・防衛分野では、このトピックに強気になっています。「“できる唯一の情報源 (single source of truth) ”」というフレーズが再び脚光を浴び、マスターデータ管理 (MDM - Master Data Management) とデータガバナンス (DG - Data Governance) というアイディアは、皆さんの環境を問わず、健全で正確なデジタルスレッドを維持するために不可欠なものになっています。しかし、ほとんどのバズワードやキャッチフレーズがそうであるように、それらは人や組織によってその意味は大きく異なることです。

1983年の創業以来、CIMdataは業界の向上のためにこのような議論・討論の調整・仲裁を支援しており、ここ数年間、積極的にこのトピックに取り組んできました。CIMdataは、社のPLMの目標を達成するために全面的に信頼依存しているソフトウェアおよびサービス企業とともに、世界の航空・防衛業界の要件のための擁護団体 (advocacy group) である Aerospace & Defense PLM Action Group (AD PAG) を運営しています。2021年、CIMdataでは、業界におけるデジタルスレッドに関する最新技術と実践状況をよりよく理

解するために、また世界のA&D業界並びにより一般的なPLM ユーザーの相互利益のために、これらのソフトウェアやサービス企業のロードマップと計画に影響を与えるのに役立つようなベストプラクティスや業界のニーズをドキュメント化するために、このトピックに関するリサーチペーパーを発表し、AD PAGと主要なソフトウェアおよびサービスのプロバイダーが共同で資金を提供するリサーチを開始しました。

今年のPLM Market & Industry Forum のテーマ「The Digital Thread...」は、AD PAGとPLM エコノミーにおけるこのテーマについて非常に重要な取組みを活用すべく選んだものです。最初のテーマ別プレゼンテーションでは、これまでの作業の背景を説明し、デジタルスレッドと関連するトピックを明確に定義し、続くセッションへのフレームワークを提供します。1つは、デジタルスレッドに関する産業界の視点に焦点を当て、このトピックに関する主要な産業界の企業へのインタビューや、A&D以外の産業界からの幅広い視点を獲得するためにCIMdataが実施したWebベースのサーベイを活用する予定です。

### 2023年度の開催日&開催地

北米：3月30日、Ann Arbor, MI (The Kensington Hotel)  
欧州：4月4日、GERMANY (Frankfurt Airport)  
インド：4月、バーチャル  
中国：4月日、バーチャル  
日本：4月18&19日 バーチャル (8:00 a.m. ~)

## CIMdataの 2023 PLM Market & Industry Forum

本業界をリードするフォーラムで、CIMdataはデジタルスレッドのトピックを取り上げ、これらの新しく進化する要件に最も効果的に対応するために業界が直面する課題について議論します。グローバルPLMエコノミーは、これらの要件にどのように対応しているのでしょうか？PLMエコノミーの産業界の顧客は、デジタルスレッドの目標をどの程度達成で

きているのでしょうか？この2つの質問に答えるために、CIMdataは2022年後半から2023年前半にかけて各グループと実施した一次リサーチを活用します。

CIMdata 2022 PLM Market & Industry Forumは、グローバルなPLMエコノミーにおけるソフトウェアおよびサービスのプロバイダー向けの最重要イベントであり、PLMコミュニティメンバーおよびグローバルPLM市場へのさらなるインサイトを得たい企業にとって重要なものとなります。2023年度のフォーラムでは、現行の経済情勢とトレンドに関するインサイトを提供するとともに、上記で取り上げた課題 (challenges) と機会に焦点を当てて、PLMエコノミーに及ぼす影響を検証します。CIMdataの2023年のグローバルPLM市場分析結果の最初の公開リリースに加え、PLMドメイン、業界、地域全体の市場成長、そして主要なPLMソ

リューションプロバイダーの業績 (収益と市場シェア別) に関する広範な分析と予測を含み、PLM市場の現行状況と将来のトレンドについてCIMdataの視点が詳細に提示されます。

CIMdata PLM Market & Industry Forumの参加者は、現行PLM市場とそれに影響を与えるダイナミクスをしっかりと理解し、市場の継続的な進化に対する現実的な予測を明確にして展開することができます。出席者はまた、今後1年間にPLMエコノミーのナビゲートに活用できる機会とアプローチについてさらなるインサイトを得ることができます。このイベントでは、競合他社、協業者、潜在的なパートナーなど、CIMdataコミュニティに於る各社の専門家とのネットワークキングも可能になります。本プログラムの登録は、[www.CIMdata.com](http://www.CIMdata.com) にアクセスしてください。

## Day 1 - Agenda - 2023年4月18日 (火) 午前8時～12時

**8:00 a.m. - 8:05 a.m. はじめに (Welcome)**

**8:05 a.m. - 9:35 a.m.**

**PLMの状況 - 現行市場並びに最新トレンド (State of PLM - Today's Market and Leading Trends) - ピーター・ビレロ**

このセッションでは、グローバルPLM業界の現行状況をレビューします。CIMdataはまた、新たなトレンド、このますます厳しい市場に於る関係者への潜在的な影響についての見解を示します。さらに、進化するPLMエコノミーとこれらのトレンドに対してCIMdataがどのように対処しているかについての最新情報を提供します。

**9:35 a.m. - 9:45 a.m. 休憩 (Break)**

**9:45 a.m. - 11:15 a.m.**

**2022年度市場分析結果 (2022 Market Analysis Results) - スタン・ブルジビリンスキー**

PLM業界の進展と方向性への包括的且つ正確な識見を持つ最善な情報源として長期に渡って認められているCIMdata 年次PLMグローバル市場の分析は、本フォーラムでまず最初の公開となり、さらなる詳細についてはCIMdata PLM MAR seriesにレポートされます。

**11:15 a.m. - 11:25 a.m. 休憩 (Break)**

**11:25 a.m. - 11:55 a.m.**

**2022年度 日本市場分析結果 (2022 Market Analysis Results) - 江澤 智**

前セッションに続き、このセッションでは例年通り2022年の日本市場に焦点を当てます。

**11:55 a.m. - 12:00 p.m. 終わりに (Close)**

## Day 2 - Agenda - 2023年4月19日 (水) 午前8時～11時05分

**8:00 a.m. - 8:05 a.m. はじめに (Welcome)**

**8:05 a.m. - 10:20 a.m.**

**デジタルスレッド：ビジネス変革の原動力 (The Digital Thread: Powering Business Transformation)**

製品ライフサイクル全体を通じて、さまざまなアプリケーションから膨大な量のデータが生成されますが、PLMに関連するものはごく一部に過ぎません。デジタルスレッドは、現在の製品の開発、製造、そしてサポートを向上させ、また将来的にはより優れた製品を生み出すために、これらの情報を共にリンクさせることに焦点を当てた概念です。この概念は、世界の航空宇宙&防衛 (A&D) 業界に特に関連しており、CIMdataが運営するA&D PLM Action Group (AD PAG) にとってふさわしいリサーチトピックとなっています。

**8:05 a.m. - 8:40 a.m.**

## **デジタルスレッドの有望性 (The Promise of the Digital Thread)**

冒頭のこのセッションでは、現行リサーチ活動の基礎となったデジタルスレッドに関する以前のAD PAGリサーチを含み、このトピックの背景について説明します。

### **8:40 a.m. – 9:15 a.m.**

#### **デジタルスレッド：PLMエコノミーの視点 (The Digital Thread: The PLM Economy Perspective)**

多くのソリューション&サービスプロバイダーは、すでに産業界の各社の顧客でデジタルスレッドをサポートしています。CIMdataのリサーチの一環として、弊社は主要なソリューション&サービスプロバイダーから、この新しい要件に対応するために直面している課題に関する情報を収集しました。

### **9:15 a.m. – 9:50 a.m.**

#### **デジタルスレッド：産業界の視点 (The Digital Thread: The Industrial Perspective)**

CIMdataのリサーチの一環として、弊社はオンラインのサーベイと世界の主要なA&D企業へのインタビューの両方を使用して情報を収集しました。このセッションでは、この重要な概念をより良くサポートするためのガイダンスをPLMエコノミーに提供するために、これらの調査結果を要約するものです。

### **9:50 a.m. – 10:00 a.m. 休憩 (Break)**

### **10:00 a.m. – 11:00 a.m.**

#### **重要トピックのアップデート (Updates on Key Topics)**

CIMdataは、PLMエコノミーに関心のあるこれ以外のトピックも調査を進めています。以下のセッションには、それらトピックに関するCIMdataの初期リサーチが含まれており、重要なインサイトを提供できることを期待しています。

### **10:00 a.m. – 10:30 a.m.**

#### **グリーンエネルギーへの移行 (The Green Energy Transition)**

気候変動に対する懸念の高まりは、多くの産業において、化石燃料から再生可能でクリーンエネルギーやより持続可能な製品へと、エネルギーのエコシステムをシフトさせつつあります。企業は、温室効果ガスの排出を「ネットゼロ」にするという野心的なコミットメントで対応しています。ここでは、企業の製品およびオペレーション（サプライチェーンを含む）の二酸化炭素排出量を削減し、デジタルスレッド全体に持続可能性を組み込むための重要な側面についてレビューします。

### **10:30 a.m. – 11:00 a.m.**

#### **デジタルスレッド時代におけるデータガバナンス (Data Governance in the Era of Digital the Digital Thread)**

多くの場合、デジタルスレッドの取組は、企業データの堅牢性に基づいて成功あるいは失敗もしています。データガバナンスは、持続可能性を確実にするために慎重に計画し、管理されなければならないプロセスではなく、プロジェクトであると組織が信じ続けているため、真のROIには程遠い状態が続いているのです。

### **11:00 a.m. – 11:05 a.m. まとめ・終わりに (Closing Comments)**

以上、担当：

**ピーター・ビレロ**、CIMdata 社長&CEO (Peter Bilello, President & CEO)

**スタン・プルジビリンスキー**、CIMdata VP (Stan Przybylinski, Vice President)

**江澤 智**、CIMdata日本代表/メタリンク